

## 居酒屋サブの料理帖・京都おばんざい編# 4

### (焼きシイタケと春菊の白和え・相国寺)

京都の烏丸通と三条通の交差点辺りの細い路地を入ったところに小さな居酒屋サブがある。店主の響三郎（通称サブ）が4歳の女の子（藍）と二人で切り盛りしている小さな店である。

不愛想な三郎ではあるが、そんな雰囲気が良いと言ってくれる常連さんが多い。藍が可愛いと言って来てくれるお客も三郎には嬉しかった。

京都は一見（いちげん）の客よりなじみの客を大事にするとよく言われるが、店主の三郎はなじみの客には勝手に飲んでもらって、京都観光で遠方から来られる一見の客との会話が好きである。そんなお客様と三郎の会話を通して、京都の寺社とおばんざい料理を紹介していく。

「いらっしゃい！」

「美味しい京都の日本酒を冷でくれますか」

「はい、伏見を代表する松本酒造の山田錦です」

——松本酒造の酒造場とその前景の菜の花畑は「燃えよ剣」や「必殺仕事人」をはじめとする時代劇の撮影地となっている場所で、広く知られている。大正11年に建てられた酒蔵と煉瓦建造物の倉庫と煙突は月桂冠大倉記念館や十石舟等とともに「伏見の日本酒醸造関連遺産」として平成19年（2007）に経済産業省の近代化産業遺産に認定された——

「心地良い苦味と酸味、そして旨みのバランスが良いね」

「兵庫県加東市の山田錦を100%使用した、純米大吟醸酒で、発酵した際の自然な炭酸ガスが少量含まれています」

「ほのかなガス感は、フレッシュな感じがしますね」

「ところでお客様はどちらから？」

「秋田県は角館から来ました」

「枝垂れ桜の奇麗なところですよ」

「角館は武家屋敷等の建造物が数多く残されており、みちのくの小京都とも呼ばれているのですよ」

——佐竹義隣（よしちか）の実父は京の公家・高倉家の高倉永慶であり、義隣は高倉家からの養子である（母が佐竹家の娘）。また、2代佐竹義明も公家・三条西家一門である西郊家の西郊実号の娘を正室に迎えた事から角館には多くの京文化が移入された——

「つまみが欲しいのだけど、この店はメニュー無いの？」

「はい、カウンターに並んでいる幾つかの大皿料理からお客様に選んで頂きます」

「右から3番目をください」

「はい、おじさん、焼きシイタケと春菊の白和えです。おいしいですよ！」

最近は藍もお手伝いができるようになった。

「お嬢ちゃん、可愛いね。マスターのお孫さん？」

「そういうことにしておいてください」と、恥ずかしそうにお茶を濁す三郎だが、藍はなんだか孫と言われたのが嬉しいようで、にこにこしている。

**本日のおばんざい（焼きシイタケと春菊の白和え）**——山崎トメさん直伝の料理メモより  
春菊の苦味と豆腐のやさしい甘みのコラボレーション——

**材料（2人分）：**

シイタケ（生）2個、醤油小サジ1、春菊1束、  
ニンジン1/8本

**和え衣：**木綿豆腐200g、酒小サジ2、砂糖小サジ2、練り白ゴマ小サジ2、すり白ゴマ小サジ2、白味噌大サジ1

**作り方：**

- ①シイタケは石づきを切り落とし、軸と笠に切り分ける
- ②春菊は固い軸を切り落とし、水洗いする
- ③ニンジンは皮をむき、千切りにする
- ④木綿豆腐はキッチンペーパーで包み、重しをのせて水気をきる（30分位）
- ⑤シイタケは熱した焼き網にのせ、焼き色がつくまで焼き、軸は縦に裂いて笠は薄切りにし、醤油をかける
- ⑥たっぷりの熱湯でニンジンをサッと茹でて取り出す。続けて春菊をサッとゆでて冷水に取り、粗熱が取れたら水気を絞り、長さ3cm位のザク切りにする
- ⑦フードプロセッサーに木綿豆腐をひとくち大にザックリ割って入れ、他の和え衣の材料も入れて攪拌する。ボウルに和え衣を移し、シイタケと春菊、ニンジンを加えて和え、器に盛る



「春菊の程よい苦みと豆腐のほのかな甘みのがすごく合っていて美味しいよ」

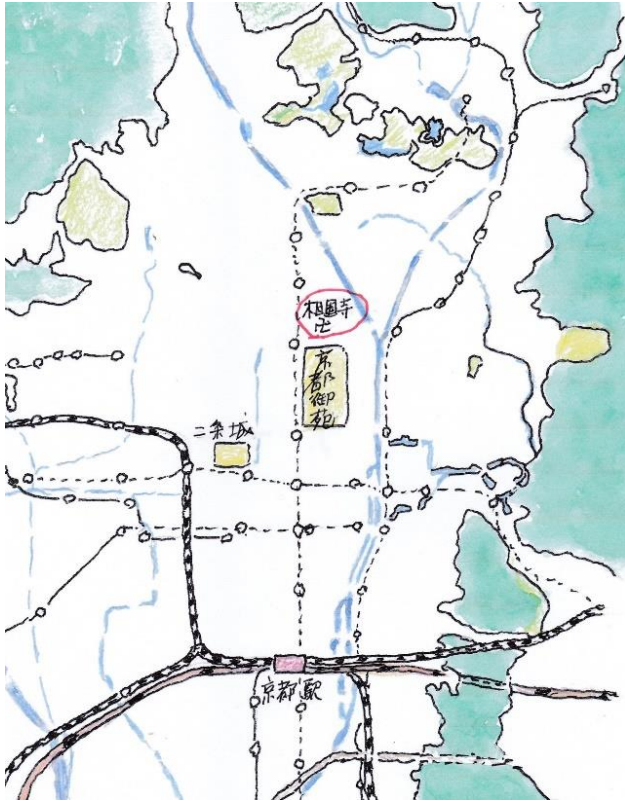
「ところでお客さん今日はどちらにいかれました？」

「相国寺に行ってきました」

——相国寺（しょうこくじ）は臨済宗相国寺派大本山の寺院で足利義満の命により、春屋妙葩（しゅんおくみょうは）が創建を計画し夢想疎石が開山した——

「室町幕府三代将軍の足利義満が発願した由緒あるお寺ですね。意外に思われるかもしれませんが金閣寺（鹿苑寺）や銀閣寺（慈照寺）は相国寺の山外塔頭（たちゅう）なのですよ」

三郎はお客と楽しく会話出来るように京都のことをいろいろ勉強している。そんな三郎を藍は誇らしげに見ている。



「私は仕事柄、古い建築物に興味があるのですが、慶長10年（1605）に豊臣秀頼が寄進した法堂（はっとう）は入母屋造り、本瓦葺きの法堂で現存最古かつ最大の規模で、見応えがありましたね」

——内部は非公開だが、春秋の特別公開等で拝観可能。天井には狩野光信筆の「蟠龍図」が描かれ、鳴き龍として知られる——

「それから、伊藤若冲の墓がありました。京都が誇る異色の絵師の（若冲）の号は相国寺禅僧の大典顕常（だいてんけんじょう）から与えられたとも言われているですよ」

「伊藤若冲の墓の横には室町幕府第8代将軍・足利義政と小倉百人一首の撰者・藤原定家の墓が並んでいますよね。それにしても、

お客さん、凄い物知りですね」

「いやー、受け売り、受け売り！」

こんな他愛もない会話で、京都烏丸三条の夜は更けていく。

次回の投稿がいつになるか分かりませんが、 つづく